

富山市定例市長記者会見（令和4年7月5日）

■冒頭

市長

皆さんこんにちは。

暑い中、忙しい時間帯にたくさんの方にお集まりいただき、ありがとうございます。それでは定例記者会見を始めさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

■令和5年度富山市の重点事業について

市長

このたび、令和5年度予算編成に向けて、富山市の重点事業に関する国及び県への要望をとりまとめましたので、ご報告します。

先日、県知事と県議会議長へお伺いして説明してまいったところであります。今回は全体で58件の事業があり、新規事業が3件、継続事業が55件、合計58件です。本日は、新規事業の3件についてご説明します。

まず一つ目は、公共施設整備のリース方式に対する財政支援の創設についてです。

富山市では、長期的な視点をもって、公共施設の統廃合・再配置などを効率的・計画的に行うため、「富山市公共施設等総合管理計画」等に基づき、公共施設の再編に取り組むとともに、公共施設の整備等については、民間事業者が有する経営ノウハウなどを活かすため、PPPあるいはPFI事業の活用を努めてまいりました。

このような状況のなか、本市では、今後、人口減少等により、公共施設の利用需要が減少することが予想される施設について、市が施設を所有しない、いわゆるリース方式による整備が有効な手法の1つであると考えて

おり、本市では、例えば、本庁舎北側公有地活用事業として隣の Toyama Sakura ビルや、卸売市場の整備においてリース方式を採用しているところでもあります。

しかしながら、リース方式では施設の所有権が富山市にないことから、国の補助金制度の対象とされてこなかったところでもあります。

今後、一段と財政状況が厳しくなることが予想されるなか、多様化する市民ニーズに的確に対応するためにも、引き続き、多様なPPP手法を活用していく必要があると考えております。リース方式を活用した公共施設の整備に対する財政的支援措置の創設をお願いするものです。

昨年度は、同様の要望を公設卸売市場の整備に対する支援として農林水産省に要望してきたところでもあります。今後、さまざまな施設に活用することも想定されることから、公共施設全体を対象とし、内閣府に対し、新たに要望を行うものであります。

二つ目は、地域公共交通の活性化に向けた支援についてです。

本市では、人口減少や少子・超高齢化の進行を見据え、持続可能な都市構造への転換を図るため、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を長期にわたり一貫して重要施策として取り組んでまいったところでもあります。

一方で、全国の地域公共交通を取り巻く環境、これは人口減少や少子化、超高齢化、さらには、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、非常に厳しい状況になっていると認識しております。

こうした中、地域公共交通を維持し、車を自由に使えない学生の皆さんや高齢者の皆さんなど、いわゆる交通弱者といわれる方々の移動手段を確保することは、富山市においても喫緊の課題であると考えており、高齢者など交通弱者に対する新たな補助制度及び自治体が行う地域公共交通サービスレベルの維持・向上に向けた補助制度の創設など、地域公共交通の

活性化に向けた支援についてお願いするものです。

三つ目は、ゼロカーボンシティの実現に向けた支援についてです。

令和2年10月に、国によるグリーン社会の実現に向けた「2050年の温室効果ガス排出実質ゼロ」が表明されたことを契機として、ゼロカーボンの推進に向けた機運が高まる中、富山市においても、令和3年3月にゼロカーボンシティを表明したところであります。

ゼロカーボンシティの表明に合わせ、本市では、ゼロカーボンシティの実現に向けた方針・施策・温室効果ガス削減目標等を定める「富山市エネルギービジョン」を策定しております。この「富山市エネルギービジョン」に掲げた各事業の推進のため、支援策の継続及び拡充についてお願いするものです。

以上が、令和5年度富山市重点事業のうち、新規事業の3件になります。

今後、国会議員や市選出県議会議員の先生方、並びに国の関係省庁等の関係機関に対し、市議会とも連携して要望活動を展開してまいりたいと考えております。

説明は以上です。

■ タニノクロウ氏の政策参与委嘱について

市長

このたび、本市出身の劇作家・演出家であるタニノクロウさんに富山市政策参与を委嘱いたしましたのでお知らせします。

政策参与につきましては、まちづくり、環境、芸術文化等の各分野において、優れた見識をお持ちの方に、専門的知見からご助言をいただくもので、例えば建築家の隈研吾さん、映画監督・俳優の奥田瑛二さんなどがいらっしゃいますが、今回委嘱するタニノさんの他に、16名の方がいらっしゃいます。

タニノさんは、私が市長に就任してから、はじめて新規に政策参与を委嘱するもので、任期は今月 1 日から、既に始まっていますが、7 月 1 日から 2 年間お願いしております。

来年度に予定する中規模ホールの開館等により、本市の芸術文化施策をネクストステージに進めるタイミングであると考えております。タニノさんには、舞台芸術の振興や中規模ホールの活用方法等について、ご助言をいただきたいと考えております。

タニノさんの略歴等は配布資料のとおりですが、平成 28 年に、富山の温泉宿を題材に制作された「じごくだにおんせん 地獄谷温泉 むみょう やど 無明の宿」で、「演劇界の芥川賞」とされる「きしだくにお 岸田國士戯曲賞」を受賞されるなど、国内外から高く評価されています。

また、オーバード・ホールにおける、平成 31 年 3 月の「ダークマスター 2019 TOYAMA」や、令和 2 年 12 月の「えがお とりで 笑顔の砦' 20 帰郷」の公演、これは私も拝見させていただき大変感動いたしました。このような公演（作品）があります。タニノさんはこの「えがお とりで 笑顔の砦' 20 帰郷」の際には、長期間、富山に滞在され、「オール富山」の体制で地元スタッフと舞台を作り上げられたと聞いております。ステージ上に特設の舞台、オーバード・ホールの広い舞台に観客席を設け、まさに演者と観客が一体感のある非常に近い距離での演劇でありましたので、私も鮮明に覚えておりますし、感動した記憶がございます。

今日はタニノさんが来ていらっしゃると思いますので、ご紹介させていただきます。タニノクロウさんです。

タニノさん

よろしく申し上げます。

市長

タニノさんには午後から富山市内のいろいろなところを視察していた

だき、いろいろな構想やアイデア、アドバイスがあれば、早速今日からいただくということになっております。元精神科のお医者さんであり、異色のキャリアということ、富山市出身でもございますし、そのようなキャリアを生かされて、先ほど私も感動したと言いましたが、人々の心に深く刻み込まれる、共感できる、そのような作品を、市民参加型といいますか、いろいろな方を巻き込んで作っていただきたいということを期待しています。同時に、中規模ホールそのものは多彩な舞台使い、客席使いができますので、そのような面からもアドバイスをいただきたいと思います。

本市における演劇人材の育成はもちろんでありますが、舞台芸術の魅力をさらに高めていただくという面でも活躍を期待しています。

タニノさん

（政策参与の委嘱について）本当に光栄に思っております。政策参与としては、私が最年少なんです。私が最年少でいいのかなということがありまして、だから、今日言うことではないのかもしれないのですが、なるべく早く、10代ぐらいの有能な人に出会い、藤井市長に次の人を提案するということを目標に頑張ろうかなと思っています。ありがとうございます。よろしくお願いします。

市長

急な振りで申し訳ありませんでした。ありがとうございました。
タニノさんに関するご報告は以上です。

■ 第19回MM総研大賞の大賞受賞について

市長

富山市ではさまざまなスマートシティに関する取り組みを行っていますが、本市の取り組みがMM総研大賞の大賞を受賞しました。

MM総研は1996年に設立された情報通信市場の調査を専門とした企業で、その分野では国内最大規模です。

MM総研大賞は、MM総研が2004年に創設した賞で、ICT分野の優れた製品・サービスの表彰を通じ、ICT分野の市場、産業の発展を促すことを目的として創設されたものです。

毎年10数件程度の分野別の表彰を行っており、その中から「大賞」が選定されています。直近ではNTTドコモの「^あh^はa^もm^もo」や富士通の「スーパーコンピュータ富岳」が大賞を受賞しています。

第19回となる2022年は、日本電気株式会社、高松市、富山市による「FIWAREを活用したスマートシティ」がスマートシティ分野の最優秀賞を三者共同受賞しました。

更に本取り組みが日本におけるスマートシティの推進に大きな役割を果たしている点を高く評価していただき、全9分野の最優秀賞の中からMM総研大賞2022の「大賞」として選出されました。

MM総研からの受賞理由については、都市や地域の問題を解決するスマートシティを実現するにはセンサーデータなどの利活用が必要であり、公共サービスを提供する自治体や企業などの業種を超えたデータの利活用やサービス連携を促すために開発されたデータ連携基盤「FIWARE」を活用し、さまざまな地域サービスを実施してきたことや、実施する上でのデータ連携に必要な標準化などに取り組み、ベンダーと自治体が一体となってスマートシティづくりに取り組んだ点が高く評価されたものです。

7月13日に東京で表彰式がありますので、日本電気株式会社の森田社長、高松市の大西市長とともに登壇させて頂く予定です。

本市では今回の受賞を大きな励みとして、情報通信技術を活用したまちづくりを一層推進し、富山市版スマートシティの実現を目指してまいりたいと考えております。

■富山市避難所開設訓練の実施について

市長

富山市では、本年7月下旬より、避難所開設訓練を新たに実施することといたしました。

6月19日には、石川県能登地方において震度6弱の大きな地震が発生するなど、全国各地で自然災害が頻発化・激甚化する中で、発災初期から中期における市民の安全確保と応急生活の拠点となる指定避難所の開設について、より実践的な訓練を行うことで本市の災害対応力の向上を図ってまいりたいと考えております。

本市ではこれまで、毎年秋頃に開催している「富山市総合防災訓練」、これは毎年、開催地域を変えて実施してきたものであります。この中で避難所の開設訓練も実施してきてありますが、本年度から実施する避難所開設訓練は、この総合防災訓練とは別に、市の地域防災計画に位置付けられている78カ所の「第一次避難所」のすべてを対象として実施するものであり、それぞれの避難所の備品等の保管場所や、実際の設営手順の確認等を行うこととしております。

訓練の実施時期としましては、第一次避難所の多くが小中学校の体育館等を指定していることから、小中学校の夏休み期間を中心に実施することとしており、本年度と来年度の2カ年ですべての第一次避難所で訓練を実施するという予定にしております。

訓練には、避難所開設を担当する地区センター班等の市職員と、施設管理者である小中学校の教職員が参加します。本年4月に新設した防災危機管理課の職員が訓練をサポートすることとしています。

なお、実際に災害が発生し、避難所が開設された場合には、その後の避難所運営を地域住民の方と協力して行うこととなりますので、訓練を実施する際には、地元の自治振興会等にもご案内させていただきます。

本市では、実践的な訓練を通して市職員の災害対応力を高めるとともに、地域住民の方々との共助の取り組みを進めることで、地域全体の防災力強化に努めてまいりたいと考えております。

■熊野地区におけるグリーンスローモビリティの運行社会実験について

市長

本市では、SDGs 未来都市として、持続可能な地域公共交通網の形成を目指して、環境にやさしく低速で安全なグリーンスローモビリティを運行する社会実験を本日、7月5日からの約1ヵ月間、熊野地区において行います。

この社会実験により、高齢化が進む地域での地域内交通としての活用の可能性を検証したいと思っております。

今回、社会実験を行う熊野地区は、高齢化率が高い住宅団地が数多くあり、さらに地区内にスーパーマーケットが立地していない状況にあります。

そこで、このグリーンスローモビリティが、車を自由に使えない方々のスーパーマーケットや病院などへの移動や、バス停や駅までの二次交通としての（活用の）可能性があると考え、地元の自治会や関係者の皆様のご協力を得て、今回、社会実験を行うことといたしました。

運行は、本日から8月10日（水）までの約1ヵ月間行います。

運行経路は、上野寿町公民館前から複数の団地を経由し、開発駅前にありますスーパーマーケットまでの約3.7kmの区間であり、火曜日、水曜日、木曜日の午前9時50分から午後4時まで、1日4往復します。

このスーパーマーケットに到着した後、車両は30分間その駐車場で待機していますので、30分間買い物をされた後は待たずに、またグリーンスローモビリティに乗って帰路についていただくことができます。

運賃は無料で、乗車定員は8人です。

天候や周辺の道路状況などにより、運行内容が変更となる場合がありますので、ご利用の際は、市のホームページまたは専用のインスタグラム、フェイスブック、ツイッターでの確認をお願いします。

本市としましては、今回の熊野地区や、これまで実験をしてきた富山駅北地区や岩瀬地区での実証実験結果を踏まえ、新たなモビリティとしての可能性や課題を検証し、今後のグリーンスローモビリティの本格運行に向けて進んでまいりたいと考えております。

ぜひとも多くの方々にご乗車いただき、人にも環境にもやさしい、新たなモビリティを体感していただきたいと思っております。

■ JR高山本線ブラッシュアップ「シニアおでかけトク割」の開始について

市長

JR高山本線の実証実験として発売中である高齢者向け割引乗車券「高山本線シニアおでかけきっぷ」を、中心市街地にある協賛店において提示することにより、商品の割引やサービスの提供等を受けられる「シニアおでかけトク割」を開始します。高山本線の更なる利用促進につなげるとともに、外出機会の創出や地域経済の活性化を図ってまいります。

高山本線シニアおでかけきっぷとは、富山市在住の65歳以上の方が、JR高山本線を利用して、日中にまちなかへお出かけする際に、1乗車100円で利用できるお得な特別企画乗車券であり、表紙と乗車券4枚つづり400円にて、4月19日から9月19日まで発売しております。

これまでの取り組みに加え、高山本線シニアおでかけきっぷの利用者に対して、新たな特典サービスとして「シニアおでかけトク割」を行うものであり、実施期間は、7月1日（金）から9月30日（金）までとしております。

本特典サービスの利用方法につきましては、高山本線シニアおでかけきっぷの表紙を対象の協賛店で提示していただくことで、別紙資料に記載のとおり、買い物の割引や食事の1品サービスなど、各協賛店にて特典サービスを受けられます。ただし、きっぷ1枚につき1店舗1回のみの提供となります。

このトク割は、協賛店の方々が本市の公共交通を推進する施策に関しご理解を頂くとともに、多大なご協力により実現したものであり、本当にお得なサービスであると思っております。引き続き、新たにご参画いただける協賛店を7月末まで募集しておりますので、今後も協賛店が加わっていくということでもありますので、詳しくは、本市の交通政策課ホームページをご確認ください。

本市としましては、本取り組みが一つのきっかけとなり、J R 高山本線の更なる活性化につながるとともに、まちなかへお出かけいただき、飲食や買い物など、それぞれのライフスタイルの充実が図られることを期待しております。

なお、地鉄の路線バスや、鉄道線等で実施しております I C カードの「おでかけ定期券」においても特典サービスを提供しております。協賛店や特典サービス内容が異なりますので、詳しくは本市のまちづくり推進課ホームページをご覧ください。

■ 熱帯鳥類保全施設の一般公開について

市長

富山市ファミリーパークで建設中の熱帯鳥類保全施設につきまして、その一般公開日を、令和4年9月17日(土)に決定しましたので皆様にお知らせいたします。

この施設は、神奈川県にお住まいだった栗原路子氏とそこご親族の方から、北陸の冬においても熱帯の鳥類が快適に過ごせる施設の整備に充ててほしいというご趣旨で、計3億円のご寄附をいただきましたことから、栗原路子記念熱帯鳥類保全事業基金を設置し、この基金を原資に、令和元年度から施設の計画・整備を進めてきたものであります。

この施設では、「東南アジアエリア」、「アフリカエリア」、「南米エリア」の3つの展示室を設けています。これらの展示室では合計12種類36羽の

鳥類の特徴的な色彩や形態、行動を間近にご覧いただくことができます。

展示する鳥類のうち6種類は希少種で、これらの希少鳥類の繁殖にも取り組んでまいりたいと考えております。その取り組みを来園者の方にお伝えすることにより、国内外の希少鳥類に目を向けるきっかけになればと考えています。

パネル展示では、これらの鳥を育む自然環境や希少種の現状と人間との関係について伝えていきます。

富山市ファミリーパーク公社では、市民の皆様にしみを持っていただくために施設の愛称を「バードピア」、鳥の楽園と（いう意味の）造語ですが、「バードピア」と名付けました。バードとユートピアで「バードピア」であります。

一般公開日当日には、開園前の午前8時30分から、オープニングセレモニーとして30分程度の式典を行います。その後、開園時間の午前9時から、市民の皆様に入園していただいて一般公開する予定となっております。

このオープニングセレモニーの後には、オープニングイベントとして、現在調整中ではありますが、鳥類の最大の特徴である飛翔のシーンをご覧いただけるフライトショーを実施するなど、お子様はもちろん大人の方にも楽しんでいただけるよう、企画を考えているところであります。詳細については、今後決定次第、本市やファミリーパークのホームページ等でお知らせいたします。

暦の上では3連休が2回あるシルバーウィークの初日に公開いたしますので、行楽シーズンでもありますので、多くの方に来園いただければ幸いです。

■ 報告事項（新型コロナウイルス感染症関係）

市長

本市における（新型コロナウイルス感染症ワクチンの）接種状況につき

ましては、お手元の資料のとおりであります。7月4日現在で、3回目となる追加接種を受けられた方は266,624人、全人口に対する接種率は64.4%となっております。

また、4回目接種を受けられた方は、3,470人となっております。

4回目接種は重症化予防を目的として実施しているところではありますが、対象となる方は、3回目接種から5か月が経過した60歳以上の方や基礎疾患のある方等に限定されています。

接種券は、3回目接種が完了した全ての18歳以上の方に順次発送しておりますので、接種券が届き次第、ご自身が接種対象になるかどうかを確認されたうえで、予約、接種していただきますようお願いいたします。

なお、7月から8月にかけて4回目接種のピークを迎えると予想しておりますが、市内医療機関のご協力により、十分な接種枠が確保されております。焦ることなく（接種券が）届いた方から順次、（4回目接種の）対象者であれば予約をとっていただきたいと思います。

夏休みを迎えるにあたり、行楽やレジャーのシーズンでありますので、対象者の方は4回目の接種を受けていただきたいと思います。1回目から3回目の接種や、5歳から11歳の小児への接種も引き続き実施しておりますので、まだ接種を受けていない方にはぜひ（接種を）ご検討いただきますようお願いいたします。

市内の感染者数は、6月中旬から、前の週の同じ曜日の人数を上回る日があるなど、下げ止まりの傾向が見られております。

市民の皆様におかれましては、外出する際は、今一度、ご自分の体調が悪いときは外出を控えていただく、あるいは会社へ行くことを控えていただくということも大切ですし、お子さんの（体調が悪いときは）登園や登校を控えていただくことも非常に大事だと思っておりますので、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

私からは、以上であります。

■ 質疑応答

記者

全国では、DV（ドメスティックバイオレンス）の相談件数が年々増える傾向にあり、DV等支援措置の申し出に市役所を訪れる方もいらっしゃるかと思います。

富山市では、DV被害者に対する支援や窓口での対応について、現在どのような人員を配置し、取り組んでいますか。

また、今後どのように取り組んでいく方針でしょうか。

市長

（DVの相談件数は）全国的に増加傾向にあり、富山市でもそのような傾向があると認識しております。富山市では、C i Cビル3階にある男女共同参画推進センターにDV相談窓口を設置して、平日、月曜日から金曜日の午前10時から18時15分まで女性の相談員によるDV相談業務にあたっております。

また、毎月2回、弁護士や臨床心理士による夫婦・男女に関する法律相談、悩み相談を受け付けております。

このほか、福祉保健部やこども家庭部など、各種相談窓口においても保健師や公認心理師等が困難に向き合う相談者にそれぞれの状況に応じた支援を行っております。

加えて、DV被害に関する相談の内容は非常に多様化・複雑化していることから、庁内関係部署の相談担当者のスキルアップを目指して、年2回の研修会を開催しております。

また、本人の身に危険が迫っている場合には警察や富山県女性相談センターへ早急に繋いで対応をとる必要があることから、各関係機関との連携を図るなど、DV相談体制の強化にも努めてきたところであります。

一方、国では令和2年4月に新たな相談窓口として「DV相談^{ぶらす}+」を開設し、24時間対応の電話相談、SNS、メールによる相談を行っているほか、同年10月からは全国共通電話番号にかけることで最寄りの配偶者暴

力相談支援センターにつながる「DV相談ナビ」サービスを実施しているところでもあります。(また、) 県では女性相談センターや性暴力被害ワンストップ支援センターとやまで毎日電話相談業務を行っています。

本市では従来の相談窓口に加え、このような国や県、民間機関の相談窓口について、広報とやまや市ホームページ、啓発パンフレットで市民の皆さんに周知を行ってきたところでもあります。

今後も庁内各課の窓口や関係機関と連携しながら、DV防止啓発や被害者支援に努めてまいりたいと考えております。

記者

重点要望の中の地域公共交通の活性化に向けた支援で、交通弱者に対する新たな補助制度を国に求めるということですが、既存の制度に何か課題があって、それで何か新たなものを想定されているのでしょうか。

市長

このおでかけきっぷのサービスも含めて、現在、富山市が行っている公共交通施策の中で市の単独事業をたくさん行っています。

公共交通機関をこれからも維持管理して、発展させていくためには市民の皆さんにどんどん(公共交通を)使っていただかなければならないので、このような市単独で助成、補助しているような事業に対しては国の補助が新たに創設されたり、既存のスキームについては(助成金や補助金が)増額されなければ、やはり地域の公共交通というのは厳しいわけですので、そういう意味で(要望する)ということです。

記者

新型コロナウイルスワクチンの4回目接種について、(3回目接種が完了した)18歳以上の方全員に接種券を発送されていますが、4回目接種が7月から8月にピークを迎えるということで、対象外の人が受けに来るといような目立った混乱などはありますか。

市長

直接は聞いていません。報告も受けていません。基本的には基礎疾患や体に不安のある方は、医師に診断していただいて、医師が受ける必要があると判断されれば受けていただきたいと考えております。

=====

記者

本日の発表資料と一緒に厚労省のマスク着用についてのチラシの配布がありました。県外の報道など見ていると、例えば職員の方が出勤するときなどにマスクを外しての出勤を呼びかけるという自治体もあったかと思えます。このことに関して、市長の考えをお聞かせください。

市長

感染状況を見ながらですが、これは教育委員会（の管轄）になりますが、例えば体育の授業ではもちろんマスクを外していますし、登下校時も十分な距離をとって、会話も少なめにして登下校すれば、マスク着用を推奨しないというか、マスクを外して登下校してくださいというようなフェーズに変わってきましたので、集団活動（の中）でもそうでありまして、（マスクの着用を不要とする理由の）一つはやはり熱中症対策ですね。そのことがやはり大きいと思えます。小中学校ではそういうことがあります。

また、保育園、幼稚園でも同様でありますし、すでに、運動する（とき）、あるいは集団行動の中においても、一定の距離が保たれる、換気が保たれている条件では、現場の先生たちの判断で、熱中症対策として、マスク着用を求めないというようなことになっております。

一方、職員（のマスクの着用について）であります。こちらから特に推奨しているというわけではありませんが、それも適宜、例えば自転車で登庁していらっしゃる方で、この暑い中にマスクをつけてくる人も（あまり）いないと個人的には思いますし、人ごみの中に入らない限りは、マスクを着用せず、人との距離を取って、しゃべらずに歩いてくるというのも、熱中症対策としては、よいのではないかと個人的には思っています。

ただ、全庁的に（通勤時にマスクを）外しなさいということは、行って

いません。個人の判断で、ケースバイケースで感染症を予防しながら熱中症にも気をつけているというところだと思います。

=====

記者

グリーンスローモビリティについてお聞きします。これまで2つの地区で（運行社会実験を）やってこられて、今回新しい地区（熊野地区）でということですが、今後、別の地区でもお考えでしょうか。

市長

グリーンスローモビリティについては、できるだけ多くの地域で、地域特性の違うような地域でやりたいという思いがあります。今回（運行するルート）は農村部でスーパーがない、最寄りにお医者さんも駅もバス停もない、しかも高齢化が進んでいるという地域性があります。この他に考えられるのは中山間地域などいろいろあると思いますが、検証は今後もできればやりたいと思っています。

記者

ホームページで（グリーンスローモビリティ運行社会実験の）実施地区を募集されていますが、これは熊野地区の次を考えて募集されているということでしょうか。

市長

地元の方々のご協力、熊野地区の場合もスーパーマーケットの駐車をお借りするわけですから、そこの（スーパーマーケットの）協力、地域の自治会や、地域で利用されるようなところにも説明しなければいけませんので、そのようなことも含めて、順次、できるところはやりたいと思っています。できれば地域特性の違うところで（行いたい）と考えています。

記者

（運行社会実験は）何カ所を考えておられますか。社会実験を踏まえてということだと思いますが、本格運行の具体的な時期について考えはありますか。

市長

具体的には決まっていますが、できるだけ早期に実施したいと思っています。何カ所で（運行社会実験を）行うかについては、そういう（別の地区での運行社会実験の）希望を担当課に出していますので、担当課に聞いてください。

=====

記者

タニノさんから、芸術振興について一言お伺いできますか。

タニノさん

先ほど市長からもお伝えいただいたように、一つは、オール富山という形で、この4年ぐらいで作った2作品は市民の人たちと一緒に作りました。オール富山なので、スタッフも俳優も富山の人でやると、すごい人数が集まるんです。演劇というもののクリエーション自体を、いろいろな人が職種関係なく集まれるプラットフォームみたいな感じで捉えると、これを東京でやると難しくて、（東京では）大体、演劇の人が集まる。だけど富山ぐらいの規模の都市になると、本当に多種多様な人が集まってくる。その中で関係を持った人たちの力で、僕は今回（政策参与に）選んでいただいたような気がして（います）。そのネットワークの広さみたいなところがあります。この演劇の持つ基本的な強みみたいなものを使って、いろいろな世代からの意見とかをフィードバックして、僕（自身）がそういうことを獲得することができるのではないかと考えています。また、今後、同じような企画をさせていただく場合に、同じような形で僕は取り組みたいと思っているんですが、その時にはさらに大きな輪が広がっていくんだろうなど（考えています）。また、一番重要なのは、おそらく演劇というのはそんなに無茶苦茶な成果を必要としないということなんだと思うんですね。生産性みたいなことからかけ離れたようなところがあって、だからこそ全力でできて、だからこそ真剣に悩めるみたいなところがある。だから、ぜひ多くの人たちにそれを体験してもらいながら、まちや人への興味みたいなものを広げていって欲しいというのが、今、僕が思っていることです。

市長

ありがとうございました。素晴らしいですね。

私もタニノさんとは親しくいろいろな話をさせていただいていますが、今、中規模ホールを作っていますが、道路をどんなに良くしても、どんなに立派な橋をかけても、どんなに立派な公共施設を作っても、やはり利用する人間なんですね、最終的には。だから、芸術や文化、スポーツ、音楽の力というのは、やはり中身なんですね。そこが大事だというところでタニノさんと共通点があり、今回のこと（政策参与の委嘱）になってきたのだと思っています。（タニノさんが）おっしゃった輪がどんどん広がればいいと思っています。

=====

記者

避難所開設訓練の実施について、2カ年かけて市域全域で行うということですが、市長の思いをお聞かせください。

市長

数年前の大変な豪雨の時に、私の近隣の小学校3カ所で、実際、深夜に避難所が開設されました。いずれも小学校でしたが、その時には私も当時県議会議員でしたので3カ所を回りました。開設して、事なきを得たのでよかったのですが、開設する初動で、自治会の皆さんや地域の住民の皆さんが、学校の先生が鍵を開けるわけですから、そのあたりの段取りで大変苦労したとお聞きしました。実際、今までの富山市防災訓練では限られたエリアだけで、たくさんの住民の方に集まって訓練をしていただいていたわけですが、その一部に、今回の（一時避難所）開設訓練があったわけです。その（一時避難所を）開設するというところだけは全員にやって欲しいと思い、今回に至ったわけです。本当は78カ所を一度にやりたいのですが（学校行事等との調整などもあることから2カ年で行います）。一つ一つ検証しながら、（例えば）備品がどこにあって、どういうふうに誰が持ってきてということを検証しながら、主に避難所を開設する人と運営する人の長と市の職員、防災危機管理課の職員で初動の（避難所）開設（訓練を）して、運営の直前までをやろうと、ここだけはやっておかないと（避難所

が) 開かないということなので、それ(開設訓練)を、最短2年でやろうと(いうことです)。その後も、初動だけですが、随時毎年やっていけたらと思っています。

従来の富山市総合防災訓練もエリアを変えながら、従来どおり行うことで考えています。

いずれにしましても、本当に避難所を開設するとなると大変で、すぐに開かないので、開設する担当の人や運営する初動対応の人を中心に、開設訓練をしようということになりました。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課